

イブキボウフウ	<i>Libanotis ugoensis</i> (Koidz.) Kitag. var. <i>japonica</i> (H.Boissieu) T.Yamaz.	準絶滅危惧
		セリ科
選定理由	分布域の一部において生育条件が悪化しており、種の存続への圧迫が強まっていると判断される。	<p style="text-align: center;">写真(奥田浩之)</p> 
形態の特徴	多年草。全体に毛が散生する。茎は直立して多く分枝し、高さ30-120cm。葉は2-3回羽状複葉で、小葉は細かく切れ込む。複散形花序は直径3-6cmで、分果の背に短毛が密生する。	
生態的特徴	丘陵地から山地の日当たりのよい草地や、林床の明るい疎林に見られる。花期は7-9月。	
分布状況	北海道、本州(近畿以東)、四国に分布する。岐阜県においては県南に見られる。	
減少要因	本種の生育環境である丘陵地は、人間の生産活動の活発な場所でもあり、改変により生育地が消失している。また生育地の管理放棄による植生遷移の進行が減少を加速させている。	
保全対策	丘陵地や低山地にある里山の草地は開発の影響を受けやすいため、可能な限り生育地の開発規制を行うとともに、草刈りや火入れによる草地環境の保全・管理を継続していく必要がある。	
特記事項		
参考文献	「日本の野生植物 草本Ⅱ 離弁花類」(佐竹義輔ほか(編), 1982年)	

文責: 奥田浩之